

「とくしま青少年プラン2017」計画の進捗状況について

基本目標1. 青少年の健やかな成長のための社会環境の整備

事項	H27年度 (基準年度)	R3年度 目標値(B)	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績見込(A)	達成度 A/B	事業概要	H29～R2の成果及び取組	所管課
施策の方向1 家庭・地域の教育力の向上									
1 「コミュニティ・スクール」 モデル校数	22校	33校	28校	29校	66校	200.0%	「地域とともにある学校づくり」の推進のため、コミュニティ・スクールの意義等を周知し、モデル校のより一層の普及促進を図る。	【取組】 「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」やコミュニティ・スクール推進研修会の開催、コミュニティ・スクール推進プロジェクト会議の設置、市町村教育委員会や校長会訪問時における説明等、コミュニティ・スクールの普及促進に努めた。 【成果】 市町村教育委員会や学校の管理職においてコミュニティ・スクールの意義や導入の手順等についての理解が深まり、コミュニティ・スクールの導入に向けて具体的な取組を進める自治体や学校が増えてきた。 *目標値修正	学校教育課
2 少年の日事業、青少年センター まつり等参加者数（累計）	2,889人	15,000人	5,030人	7,375人	7,931人	52.9%	青年たち自らの企画・運営による体験活動等を通して、青少年の団体活動やボランティア活動の活性化を支援する。	【取組】 青年と子どもの地域活動を活性化するための事業等を各市町村で実施している。また青少年団体と連携し、青少年センターまつりを実施する。 H29年度：2,682人、H30年度：2,348人 R1年度：2,345人 R2年度：556人 【成果】 青少年の団体活動やボランティア活動の拡大を図ることができた。	次世代 育成・ 青少年課
施策の方向2 青少年の健やかな成長と自己形成支援									
3 1日10分以上読書（新聞等を含む）をする児童生徒の割合	84.2% (小5) 74.8% (中2)	90%以上 (小5) 85%以上 (中2)	90.9% (小5) 80.2% (中2)	90.1% (小5) 80.2% (中2)	R3.3月末日 判明予定	-	児童生徒の主体的な読書活動の推進に向け、学校・家庭・地域が連携し、読書活動の重要性への理解とその魅力について発信し、読書習慣の定着を図る。	【取組】 「読書の生活化プロジェクトV」や「書評合戦（ビブリオバトル）」の県大会の実施など本や新聞記事についての語り合い活動に取り組んでいる。 【成果】 1日に10分以上読書をする児童生徒の割合が増加している。 H29 88.5% (小5) 78.9% (中2) H30 90.9% (小5) 80.2% (中2) R1 90.1% (小5) 80.2% (中2) (※R2は3月に調査予定)	学校教育課
4 青少年指導者養成講座参加者数 (累計)	60人	350人	126人	145人	206人	58.9%	青少年の指導者及び青少年リーダー等を対象とした講座を開催し、青少年健全育成を推進する人材の育成、資質の向上を図る。	【取組】 青少年団体連絡協議会と連携し、青少年指導者養成講座等を実施する。 H29年度 92人、H30年度 34人、R1年度 19人 R2年度 61人 【成果】 青少年の支援者等の資質の向上が図られた。 今後の方針：ニーズの高い講座を開催するとともに、広報にも力を入れていく。	次世代 育成・ 青少年課

事項	H27年度 (基準年度)	R3年度 目標値(B)	H30年度 実績	R1年度 実績(A)	R2年度 実績見込(A)	達成度 A/B	事業概要	H29～R2の成果及び取組	所管課
施策の方向性3 青少年の交流・体験活動の推進									
5 放課後や週末等における教育・体験活動の実施率	47.0%	100.0%	91.5%	92.8%	99.3%	99.300%	子供たちが放課後や週末等に多様な学びや体験活動及び地域住民との交流体験を行う環境づくりを推進する。	【取組】 放課後等における多様な学びの場づくりを推進するコーディネートや指導者の資質向上を図る研修会を実施している。 【成果】 地域住民の参画により、放課後等の多様な学習・体験活動の場が提供できた。 H29年度 81.9% H30年度 91.5% R1年度 92.8% R2年度 99.3%(見込み)	生涯学習課
6 徳島県青少年センター利用者数	202,132人	210,000人	244,371人	206,729人	120,344 (R3.1月末現在)	51.9%	指定管理者と連携し、県民への総合サービスの拠点として、青少年センターの魅力ある管理・運営を行い、利用の促進を図る。	【取組】 青少年のニーズを踏まえた施設の充実や、各種講座を実施し、運用面の充実を図っている。 H29年度 206,729人、H30年度 244,371人 R1年度 247,037人、R2年度 120,344人(R3.1月末現在) 【成果】 青少年がスポーツや講座などへの参加や余暇を活用できる施設として、活動の場を提供した。	次世代育成・青少年課
施策の方向4 スポーツ・芸術文化活動の推進									
7 全国高等学校総合体育大会の入賞(団体・個人)数	20 団体・個人	22 団体・個人	13 団体・個人	14 団体・個人	0人	0.0%	令和4年に四国で開催する全国高校総体に向け、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図る。	【取組】 ・「徳島トップスポーツ校育成事業」(H27～30年度)及び「NEO徳島トップスポーツ校強化事業」(H31～R4)において、高校運動部活動のトップスポーツ校を指定し、指導者の配置や、指定枠による有力選手の確保、遠征費等の強化費支援を行った。 【成果】 団体・個人の入賞数は次のとおり ・全国高校総体 ㊟12 ㊟13 ㊟14 ㊟大会中止	体育学校安全課
施策の方向5 子育て支援等の充実									
8 子育て支援員の認定数(累計)	255人	800人	833人	1,021人	1,165人	145.6%	保育や子育て支援の仕事に関心を持ち、保育や子育て支援分野の各種事業等に従事することを希望する者等を対象に、「子育て支援員」として業務に従事するために必要な知識や技術等を修得するための研修を実施する。	【取組】 保育の担い手となる保育人材の育成を図るため、「子育て支援員」の研修を実施し、認定を行った。 H29年度 638人(累計) H30年度 833人(累計) R1年度 1,021人(累計) R2年度 1,165人(累計) 【成果】 子育て支援員の活用により、保育士等の負担軽減が図られた。 * 目標値修正	次世代育成・青少年課
9 地域子育て支援研修会参加者数(累計)	147人	750人	586人 (H31.3.31現在)	725人 (R2.3.31現在)	774人 (R3.2.1現在)	103.2%	子育て支援関係団体の連携強化と、子育て支援者の専門的な見識を深めるため、各種研修会を開催する。	【取組】 1 地域子育て支援ネットワーク研修会 H29: 83人 H30: 83人 R1: 71人 R2: 23人 2 地域子育て支援者の専門研修会 H29: 56人 H30: 63人 R1: 68人 R2: 26人 【成果】 本県の子育て支援に携わる関係団体間の連携が強化されたことに加え、子育て支援者が専門的な見識を深めることにより、地域全体の子育て支援力の向上が図られた。 * 目標値の修正	次世代育成・青少年課

事項		H27年度 (基準年度)	R3年度 目標値(B)	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績見込(A)	達成度 A/B	事業概要	H29～R2の成果及び取組	所管課
施策の方向6 青少年を取り巻く有害環境等への対応										
10	大学生による薬物乱用防止指導員養成数（累計）	20人	100人	50人	82人	113人	113.0%	若者の薬物乱用防止に対する意識の向上を図り、薬物に手を出さない社会を目指すため、薬物乱用防止指導員の養成を推進する。	【取組】 ・県内の大学と協働し、薬物乱用防止指導員の養成 H29年度：20人、H30年度：30人、 R1年度：32人、R2年度：31人 ・大学祭において学生指導員と共に啓発活動の実施 H29年度：2校、H30年度：3校、 R1年度：3校 R2年度：1校(大学独自で取組) ※各大学において、新たに指導員となった学生を含め、薬物乱用防止講習を実施 【成果】 上記の取組により、大学生等若者への薬物乱用防止に関する知識の普及・啓発が進み、学生指導員の養成人数増加等、学生自身による薬物乱用防止啓発に対する意識の向上が図られた。	薬務課
11	ユースサポーターによるフィルタリング利用促進活動回数（累計）	115回	600回	255回	377回	R3.4月末日 判明予定	-	インターネットを介して、子ども・若者がいじめや犯罪被害に遭う事件が後を絶たないことから、各地域における支援者として「ユースサポーター」の養成を行い、関係機関と連携しながら、フィルタリングの利用促進及び問題を抱えた子ども・若者の支援の充実を図る。	【取組】 H29年度 フィルタリング利用促進活動 133回 H30年度 フィルタリング利用促進活動 122回 R元年度 フィルタリング利用促進活動 122回 【成果】 上記の取組により、インターネットによる有害環境の浄化及び問題を抱えた子ども・若者への支援の充実を図ることができた。	次世代育成・青少年課
基本目標2 困難を有する青少年やその家族への支援										
施策の方向1 青少年の非行・被害防止対策の推進										
1	「防ごう！少年非行」県民総ぐるみ運動参加者数	500人	700人	700人	700人	70人	10.0%	地域に密着したきめ細かな青少年の非行防止・健全育成を図るため、家庭・学校・地域社会の緊密な連携のもと、各市町村、団体が一体となった非行防止活動を展開する。	【取組】 毎年度7月1日～8月31日を実施期間として、7月初旬にセレモニー、パレード、徳島駅周辺での街頭啓発活動を実施。8月初旬には「推進大会」を開催し、表彰と講演会を実施している。 （2年度は新型コロナウイルスの影響により、7月の行事は中止、推進大会は規模を縮小して実施。） 【成果】 県民を挙げて青少年の健全育成・非行防止の機運を醸成することができた。	次世代育成・青少年課
2	非行防止メッセージ事業参加者数（累計）	43人	200人	71人	104人	124人	62.0%	青少年を巡る問題が複雑多様化している中で、青少年自身が非行問題について協議し、発表することにより広く県民に非行に対する理解と認識を深め、地域に一着した青少年の非行防止・健全育成を図る。	【取組】 日頃から犯罪少年の更生活動を行っているBBS会員と子どもたちが非行問題について協議し、非行防止メッセージを県民に発表した。 H29年度 40人、H30年度 31人、R1年度 33人 R2年度 鳴門子ども学園 参加児童・生徒 20人 【成果】 県民の理解と認識を深め、非行防止・健全育成が図られた。	次世代育成・青少年課
施策の方向2 困難を有する青少年やその家族への連携支援の促進										
3	子ども・若者支援地域協議会研修会参加者数（累計）	68人	350人	127人	174人	213人 (R3.2月末現在)	60.9%	社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者に対する支援を効果的かつ円滑に実施するため、関係機関相互の情報交換及び研修会を開催する。	【取組】 H29年度：講演2回開催 参加者数64人 H30年度：講演2回開催 参加者数63人 R1年度：講演2回開催 参加者数47人 R2年度：講演2回開催 参加者数39人(R3.2月末現在) 【成果】 子ども・若者支援に携わる関係者の相互の情報共有と資質向上が図られた。 今後の方針：研修内容の充実を図り、若者支援に効果的なものとしていく。	次世代育成・青少年課

事項		H27年度 (基準年度)	R3年度 目標値(B)	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績見込(A)	達成度 A/B	事業概要	H29～R2の成果及び取組	所管課
4	青少年こころの電話相談の対応件数	151件	170件	229件	170件	516 (R3.1月末現在)	303.5%	専門の相談員を配置し、青少年の悩みや心配事等に関する相談に応じ、問題解決を支援する。	【取組】 令和元年度までは青少年センター、令和2年度よりアスティとくしま内に相談員が常駐し、青少年やその家族等から相談を受け付けている。電話相談以外にも事前予約により面談相談も実施している。件数増加に伴う対応困難な相談内容対策として、令和2年度に相談員へのスーパービジョンを実施。 H29年度 249件 H30年度 229件 R1年度 170件 R2年度 516件(R3.1月末現在) 【成果】 各関係機関と連携し、問題解決の支援に繋げている。	次世代育成・青少年課
施策の方向3 困難な状況に応じた支援（ニート、ひきこもり、不登校、障がいなど）										
5	発達障害者総合支援センターの就労支援件数	1,237件	1,500件	2,057件	1,563件	755件 (R2.12月末現在)	50.3%	ライフサイクルに応じた就労準備教育や職場での対応力を身につけるための事業を実施することで、就労支援や就労定着をすすめる。	【取組】 ・個別での就労相談 ・グループでの就労準備訓練とアセスメント ・企業等での職場実習 ・グループでの対人技能訓練 等 【成果】 特性にあった進路選択や職業選択を促進することができた。	発達障がい者総合支援センター
施策の方向4 貧困問題への対応										
6	「母子・父子自立支援プログラム」を活用した就職件数（累計）	59件	260件	207件	245件	R3年4月末 判明見込み	-	母子・父子自立支援プログラム策定員が、個々の児童扶養手当受給者の状況・ニーズに応じた「自立支援プログラム」を策定し、ハローワーク等と連携を図りながら、きめ細やかな自立・就労支援を実施する。	【取組】 母子・父子自立支援プログラムを活用した就職件数 H29 48件、H30 51件、R1 38件、R2 4月末判明見込み 【成果】 ひとり親家庭の状況に即した就職につながり、経済的自立が図られた。 *目標値の修正	次世代育成・青少年課
7	ホームフレンドを派遣した世帯数	9世帯	20世帯	7世帯	9世帯	6世帯	30.0%	親との死別・離別等により不安定となっているひとり親家庭の子どもたちの相談相手や話し相手となったり、必要に応じて、簡単な生活指導や学習指導を行うホームフレンド（児童訪問援助員）を派遣し、子どもたちの心の葛藤の緩和や健全育成を図る。	【取組】 ホームフレンドを派遣した世帯数 H29 10世帯、H30 7世帯、R1 9世帯、R2 6世帯（見込み） 【成果】 ひとり親家庭の子どもたちの心の葛藤の緩和や心の支えになるとともに、学習意欲の向上や生活習慣の改善、生活環境の向上につながった。 *目標値の修正 *今後の方針：派遣登録者の拡大により、利用促進を図る。	次世代育成・青少年課
施策の方向5 青少年の成長を支える担い手の養成										
8	子ども・若者支援コーディネーター養成講座受講者数（累計）	—	150人	70人	89人	115人	76.7%	地域において日常的な青少年の育成支援活動を行う子ども・若者支援のためのコーディネーターを養成する講座を開催する。	【取組】 若者のひきこもりやインターネット被害などについて理解を深め、地域での青少年育成支援に役立つ講座を実施する。 H29年度 57人、H30年度 13人、R1年度 19人 R2年度 26人 【成果】 地域リーダーとして青少年に対する相談・助言ができるコーディネーターの養成に繋がった。	次世代育成・青少年課
9	ユースアドバイザー養成講習会参加者数（累計）	—	600人	412人	683人	742人 (R3.2月末現在)	123.7%	子ども・若者支援に関する課題について、福祉、教育、雇用等多分野の支援者が専門・地域の枠を超え、支援者同士が相談し合える関係を構築し、各機関・地域の支援力の強化を図る。	【取組】 子ども・若者支援に関する先進的な取組やインターネットに関する専門家の講演会を実施する。 H29年度 211人、H30年度 201人、R1年度 271人 R2年度 59人(R3.2月末現在) 【成果】 子ども・若者に対する支援力の強化が図られた。 *目標値の修正	次世代育成・青少年課

基本目標3. 未来を切り拓く青少年の応援

事項	H27年度 (基準年度)	R3年度 目標値(B)	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績見込(A)	達成度 A/B	事業概要	H29～R2の成果及び取組	所管課
施策の方向1 青少年の地域づくり・社会貢献活動の推進									
1 「ボランティア・パスポート制度」参加者数	49人	350人	328人	318人	96人	27.4%	地域の課題解決に挑戦し、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的に、県内各地域で学生がボランティア活動に従事した際に、その活動記録を証明する「ボランティアパスポート制度」を徳島大学、徳島文理大学と共同で運用する。	【取組】 県が提供したボランティアメニュー等を通じ、学生が行ったボランティア活動を大学が認定する制度として運用している。 【成果】 地域の課題解決への挑戦を通じ、地域社会に貢献できる人材を育成した。 今後の方針：令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、徳島文理大学における授業としての開講が中止。令和3年度は従来どおり開講の見込みで、引き続き学生への周知と参加者拡大に努める。	県立総合大学校本部
2 青少年センターで実施する青少年講座受講者数（累計）	937人	5000人	1518人	1748人	1748人	35.0%	青少年の自己啓発や社会参加を通じ創造力を高めるとともに、仲間づくりを通して人間的豊かさを育てるため、各種講座を実施する。	【取組】 プロポーザル方式により講座実施の委託先を募集し、選定委員会により決定している。 H29年度 853人 H30年度 665人 R1年度 230人 R2年度 新型コロナウイルスの影響等により採択事業者が受託を辞退したため、実施なし。 【成果】 各種講座の実施や団体活動の支援により、青少年の活動を促進することができた。 今後の方針：青少年にとって魅力ある講座を企画し、青少年リーダーの育成に取り組む。	次世代育成・青少年課
施策の方向2 青少年の政策・方針決定過程への参画の促進									
3 県審議会等に占める若年者（40歳未満）委員の割合	10.1%	10%以上	11.2%	10.4%	10.1%	101.0%	若年者が社会の能動的形成者となるよう、審議会等への若年者委員の選任を促進し、県の政策・方針決定過程への参画を推進する。	【成果】 H28.4.1時点：10.1% H29.4.1時点：10.7% H30.4.1時点：11.2% H31.4.1時点：10.4% R2.4.1時点：10.1%（参考：審議会等数168 審議会等委員2,337人 若年者委員237人） * 目標値の修正	次世代育成・青少年課
4 「とくしま若者未来夢づくりセンター」参加者人数（累計）	105人	600人	237人	299人	299人	49.8%	若者が郷土に誇りと愛着を持ち、結婚や子育てしやすい、働く地として魅力ある徳島をつくるとともに、地方創生の若手リーダーを育成するため、地方創生につながる身近な課題について未来志向で対話し、課題解決のための新しい視点や手法を生み出す。	【取組】 H29年度：テーマ「出逢いを応援！」「自分の未来を他人にまかせて大丈夫？」参加人数131人 H30年度：テーマ「防災 自然災害の視点を若者の視点で考える」など 参加人数106人 R1年度：テーマ「子育て支援」「通年で観光が栄える徳島に」など 参加人数62人 R2年度：コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止 【成果】 若者が地域課題に関心を持ち新しい視点やアイデアを創出することにより、若手リーダーの育成につなげることができた。	次世代育成・青少年課

事項		H27年度 (基準年度)	R3年度 目標値(B)	H30年度 実績	R1年度 実績(A)	R2年度 実績見込(A)	達成度 A/B	事業概要	H29～R2の成果及び取組	所管課
施策の方向3 キャリア教育の推進と職業能力開発										
5	高校生における インターンシップの実施率	92.7%	100.0%	100.0% (H31.4.1 現在)	100.0%	R3.3月末に 判明予定	—	生徒の社会的・職業的自立に向けた 基礎的な能力の向上や勤労観・ 職業観の育成を図るため、 インターンシップや資格取得を促進 するなど、キャリア教育を推進する。	【成果】 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上 や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に 対する理解が深まった。 H29年度 97.6% H30年度 100% R1年度 100% (※R2年度は3月末に判明予定) 【取組】 高校生インターンシップ促進の一環として、 「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の 充実にも取り組んでいる。	学校教育課
施策の方向4 グローバル社会で活躍できる青少年の育成										
6	地域グローバル人材育成事業等 における県内大学生への留学支 援人数(累計)	12人	75人	75人	106人	122人	162.7%	グローバルな視点から地域の課題解決に取り 組む「地域グローバル人材」を育成するた め、県内の経済団体、企業及び高等教育機関 と連携して、 県内就職を希望する大学生等の留学を 支援するとともに、本事業の留学生を「とく しまグローバル青年特使」に任命し、報告会 等を通じて、広く県内の高等教育機関に在籍 する大学生等の海外留学の機運を醸成する。	現在まで5期に渡り県内高等教育機関に在籍する学生の 海外留学を支援するとともに、留学終了後は県主催の成果 報告会にて留学成果を報告することで、県内学生の海外 留学への動機付けを行ってきた。 令和2年度に関しては、コロナ禍により留学支援は行わ ず、報告会もウェブ上で行うなど、新しい生活様式に対 応した活動を行った。 *目標値修正	商工政策課
7	内閣府青年国際交流事業徳島県 受入事業への参加者数(累計)	—	250人	96人	96人	96人	38.4%	青少年の国際交流を推進するため、 内閣府が主催する青少年国際交流事業 等への協力を主とした取組を展開す る。 内閣府事業の地方プログラムとして外国 青年を受け入れ、表敬訪問、施設見 学、ホームステイ、県内の青少年との 交流等を実施する。	【取組】 H29年度：東南アジア青年の船事業 受入れ53人 H30年度：明治150年記念 世界青年の船事業 受入れ43人 R1年度：受入なし R2年度：新型コロナウイルス感染拡大の影響で事業中止 【成果】 国際的な視野を持った青少年の育成を図ることが できた。 今後の方針：関係団体と連携し事業の周知を図る。	次世代 育成・ 青少年課
施策の方向5 情報通信技術の進化に適応できる青少年の育成										
8	「ICT(愛して)とくしま 大賞」に対する学生からの応募 作品数(累計)	33作品	200作品	146作品	184作品	243作品	121.5%	県内最大のデジタルコンテンツ大賞で ある「ICT(愛して)とくしま大賞」 や、表彰式を兼ねた「ICT(愛して)と くしまフォーラム」を開催し、優秀な デジコンクリエイターやエンジニアを 発掘するとともに、実践的なICT 人材の育成を図る。	ICT(愛して)とくしま大賞の規模拡充を図るととも に、ビジネス展開など優秀作品の利活用促進を図った。 その結果、映像作品やCG作品にとどまらず、 小学生によるプログラミング作品やIoTを 駆使した作品が増えるなど、一定の成果が見られた。 *目標値修正	Society5.0 推進課